

各位

近畿農業協同組合研究会
代表者 北川 太一

令和4年度第2回近畿農協研究例会(通算第272回研究会)の開催について

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

近畿農業協同組合研究会は、JAの理論的・実践的諸問題を研究討議し、JA運動の発展に寄与することを目的に、昭和34年に設立された歴史ある団体です。

最大の特徴は、JA役職員、行政の農協指導担当者、農協論の研究者が一体となって研究会を運営・開催し、自由な立場で論議を重ねているところです。

この度、標記研究会を下記のとおり開催いたします。つきましては、公務ご多忙のこととは存じますが、貴団体の関係者の出席につきご配慮を賜わりたくよろしくお願い申し上げます。

なお、貴団体の支所(店)関係者にもご連絡のうえ、多数ご出席いただければ幸甚です。

敬 具

☆ テーマ **持続可能な食料・農業基盤づくりにJAはどう取り組むか**
— 『みどりの食料システム戦略』を中心に —

わが国農業をめぐる情勢は、昨今の大規模自然災害、新型コロナ、ロシア・ウクライナ紛争などにもなう大きな変動・影響をはじめ、農業者の高齢化・減少をはじめとする生産基盤の脆弱化など、大きな局面を迎えている。

また農林水産省は、農業者の減少やポストコロナも見据え、持続的に食料を安定供給できるよう、食料・農林水産業の生産力向上と環境面の持続可能性(環境負荷が少なく、災害や温暖化にも強い)の両立を実現する「みどりの食料システム戦略」を策定した。

JAグループも以上のような環境変化を深刻にとらえ、第29回JA全国大会において、「中長期を見通して重点的に取り組む5つの柱」の1つとして、「持続可能な食料・農業基盤の確立(農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けて、環境負荷に配慮しつつ、多様な農業者の確保と省力化・生産性の向上、販路強化等をすすめます)」を掲げた。

そこで研究例会では、持続可能な食料・農業基盤づくりをテーマに、現在の問題点を明らかにしつつ、実現のための課題などを解明するとともに、JAが果たす役割に焦点をあてながら、研究・討議する。

1 と き 令和4年10月27日(木) 13:00 ~ 16:40

2 開催方法 Zoomによるオンライン開催

3 もち方

(1)代表者挨拶 近畿農業協同組合研究会 代表者 北川 太一
(13:00~13:05)(2)座長解題 京都大学大学院 農学研究科 准教授 伊庭 治彦氏
(13:05~13:15)(3)報告Ⅰと質疑(13:15~14:45)
報告Ⅰ **サステナブルな食料・農業基盤づくりをどう進めるか —環境面を中心に—**
近畿大学名誉教授 池上 甲一氏
コメンテーター 京都大学大学院 農学研究科 教授 辻村 英之氏

《休憩》(14:45~15:00)

(4)報告Ⅱと質疑(15:00~16:30)
報告Ⅱ **持続可能な農業基盤づくりに果たすJAの役割**
グリーン近江農業協同組合 東近江中央営農センター長 今村 和哉氏
コメンテーター 兵庫県農業協同組合中央会 営農支援部長 小前 猛氏(5)座長まとめ(16:30~16:40)
前掲 伊庭 治彦氏

4 申込方法

申込締切日：10月20日(木)

ご参加の方の「所属団体名」、「役職名」、「氏名」をE-mail (mouhikomi@kinkinouken.jp) でご連絡ください(QRコードからも申し込めます)。送りいただいたアドレスにZoomのリンク等を連絡します。参加会費は無償です。

